

PROGRAM NOTE

2001

近藤譲：メタフォネーシス

ピアノ独奏のための

Metaphonesis

for solo Piano

「メタフォネーシス」（「メタ音化」とでも訳せばよいのだろうか）は、私自身が1970年代半ば頃に初期の「線の音楽」を説明するに当たって使った用語である。それは、音楽を聴取する場合にも作曲する場合にも、音自体よりも音相互間の関係性に着目するという姿勢を表している。当時の「線の音楽」連作の諸作品がその名の通り非常に線的な音楽であったのに対して、最近の私の音楽は響きが厚くなり、和音の連鎖とでも言い得るような形のものになってきた。しかし、そうした違いにも拘らず、私の関心は相変わらず音相互間の関係性（この場合は、和音相互間の関係性）にある。私がこのピアノ独奏曲を「メタフォネーシス」と名付けることにしたのは、そのためである。

この作品は、カナダ・カウンシルの日本-カナダ基金の資金援助により、カナダのピアニスト、イヴ・エゴヤンの委嘱によって書かれた。

近藤譲

初演：2003年2月(カナダ トロント)

初演者：イヴ・エゴヤン(ピアノ)

委嘱：Japan-Canada Fund at the Canada Council for the Arts

出版：University of York Music Press (UK)

録音：ALCD-67, EVE0106

演奏時間：11分